

巨樹・巨木シリーズ34 7月号 愛知県-2

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

巨樹探索者のU氏の資料をもとに今号も進めていく。

愛知県に関わることとして、スギ、クスノキの銘木について気づいたことをまず述べたい。

昭和の頃、住宅着工100万戸時代、木造住宅はそのうち60%、大型高級住宅の床の間には美しい銘木が使われ、数寄屋造りの茶室などもあった。建売の木造住宅には、量産化された床の間セットが置かれるという和室の全盛時代。さらに趣向を凝らした家具の三点セットは、ツキ板を主体とする木質家具として、嫁入り道具には欠かせないものとなり、ベビー箆笥の3点セットなども流行していた。キッチンにはツキ板製食器棚、洋間には木製のサイドボード、玄関にもツキ板製の下駄箱、洋間の壁には2尺×8尺のツキ板で化粧した壁材が使われている。このように昭和は天然木ツキ板オンパレードの時代であった。

このような旺盛需要に対して、供給面では全国的にも愛知、岐阜が国産材の銘木の主な産地であり、しかも生産の中心地であった。U氏の資料でも愛知県の巨樹全体42本中スギは16本で38%、クスノキは13本で31%。スギとクスで愛知県の巨樹の約70%を占めている。愛知県が、愛知銘協が、日本一の集散地としての役割を果たしていた理由が深くわかった。

スギは主として天井板、クスノキは家具の化粧面板として貴重な材であった。

筆者も愛知銘協の銘木原木入札会に通い、銘木を落札したことを思い出す。

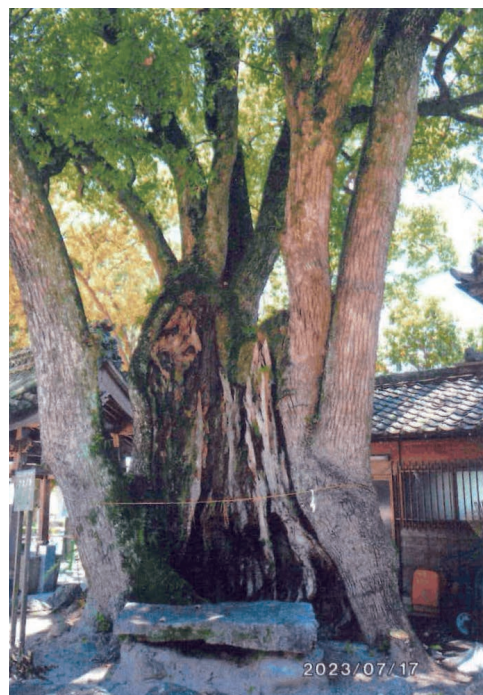
今号では、昭和の銘木の王様としてクスノキをご紹介します。利用面ではなく、巨樹・巨木の角度から筆を進めて行く。今号でもどんな巨樹に出会えるかワクワクしてきた。

写真番号1 樹番号18 八幡宮のクスノキ

樹齢不明 樹周7.5m、樹高18m 愛知県豊田^{やしちよう}市社町 豊田市名木愛護会

<筆者のつぶやき>

豊田市社町の八幡宮境内に立つクスノキ。豊田市名木第27号に指定されている有名な巨樹である。古(いにしえ)より地域の人々に親しまれてきた歴史あるご神木であり、石碑によれば、平安の昔、高橋荘の荘園領主高橋惟康が植えたと伝えられている。



写真番号1 八幡宮のクスノキ

このクスノキは根元から枝分かれしており一本の根元から育った巨樹にはとても見えない10本近い幹が自由に伸びている。「自由に伸びている」と言えば聞こえが良いが、表側はお行儀よろしくまとまっている。一方、裏側を見ると わがままいっぱい伸びているように見えつつ、分岐した幹同志は、わがままの中でもぶつかり合うこともなく、なんとなく収まっている。なるほど、これが自然の知恵というものであろうか。自然とは摩訶不思議なものであることを改めて認識を新たにした次第である。

写真番号2 樹番号19八柱神社のクスノキ(樟)

樹齢推定約1000年、樹周17m、樹高21m 愛知県豊田市畷部東町川端 愛知県指定天然記念物(指定昭和31年5月18日)

*巨樹のそばに立つ案内板より。

社殿東側に立つ八柱神社の大樟は、幹の根元は瘤状に膨らんで盛り上がり、特異な樹形である。この原因は不明であるが、地下水位と関係するとも言われている。言い伝えによると弘法大師が三河を巡錫した際に植えたといわれ神社の御神木として数多くの人をも守って来た。

<筆者のつぶやき>

裏側にまわると根元に、まるでひとが子供を抱いているように見える。顔まではっきりとひとに見える。さらに斜め上には子供が腰かけているように見えるが如何なものか？

ここで樟が出てきたので楠との字の違い、表現の違いをネットで調べたのでご報告する。

植物の学名としては「樟」が使われることが多く、神社のご神木や大きく立派な木(巨樹)を表現する際には、風格のある「楠」の漢字が好んで使われる傾向がある。昔箆筒に入れ、防虫効果のある強い香りでも虫を殺す樟腦の原料としてのクスノキは「樟」としている。一方、神社などご神木、地域の信仰のシンボルとされているクスノキは「楠」と称されている。

クスノキ(樟・楠)の特徴

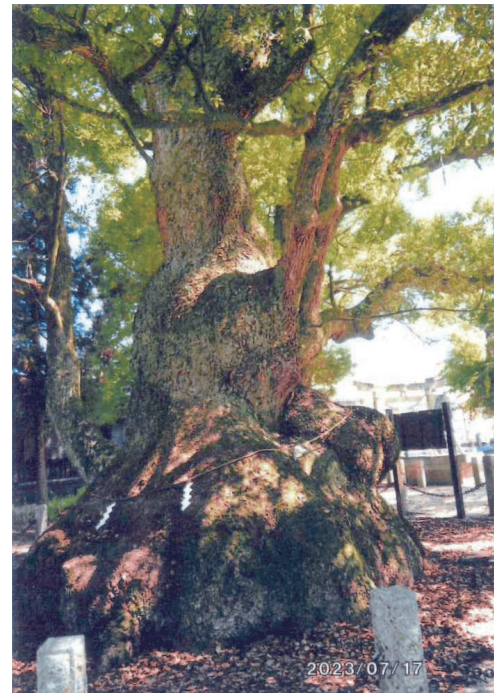
- 樟 (防虫効果)：強い芳香成分(樟腦)を含んでおり、古くから防虫剤や薬として利用されてきた。
- 楠 (ご神木)：成長が遅いが、ゆっくり成長して巨樹となる木が多いことや、虫を寄せ付けない強い生命力から、全国の神社でご神木として祀られていた。

写真番号3 樹番号22白山神社のクスノキ(大クス)

樹齢推定600年以上、樹周7.4m 樹高13m 愛知県岡崎市康生町新田 岡崎市指定文化財

*案内板より。

愛知県岡崎市康生町にある「白山神社の大クス」は、樹齢600年以上を誇る岡崎市指定の天然記念物。徳川家康が厄除け祈願のために東国から勧請したと伝えられる由緒ある神社にあり、大クスの根元近くの珍しい石鳥居があり地域から親しまれている。



写真番号2 八柱神社のクスノキ

<筆者のつぶやき>

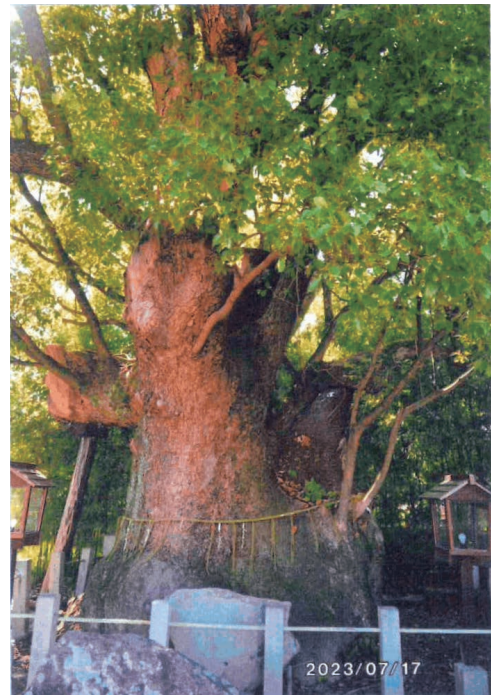
幹は高さ2メートルの位置で大きく2つに分かれ、東西に22メートル、南北14.5メートルもの枝を広げ、青々とした葉を茂らせている。樹齢600年を経てもなお、樹勢が素晴らしいのには感動する。

愛知県の昔の区分は、東が三河、西が尾張である。戦国時代には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が覇を競う地域である。

徳川家康が天下を取る30年ほど前の永禄9年(1566年)、25歳の徳川家康は今川家から完全に独立し、三河の国(現在の愛知県東部)の平定を完了させた時期。「松平」から「徳川」に改め、朝廷から従五位下・三河守に叙任されるなど、大名としての飛躍を果たした。今川氏からの独立を果たし、三河一国の支配を確立し、領国経営の基盤固めとして領内の立て直しや、家臣団の統制を進め、後の天下統一に向けた強力な家臣団(三河武士団)の基盤を築き上げた。

直ちに永禄11年(1568年)には、武田信玄と協力して今川領である遠江国(現在の静岡県西部)へと侵攻、井伊谷の井伊領に攻め入りさらに勢力を拡大していく時期であった。

白山神社はこの家康が厄除け祈願のため、東国から勧請したと伝えられ、大名として独立した覇気満々の家康の思い起す。老樹となるも今なお樹勢盛んなのは、この大クスに家康の老いても覇気未だ衰えず、を見るようなクスノキの大樹である。ほめ過ぎかな……



写真番号3 白山神社のクスノキ

写真番号4 樹番号23 山中八幡宮のクスノキ

樹齢推定300年以上 樹周7.7m 樹高21m 愛知県岡崎市舞木町字宮下 岡崎市指定天然記念物

<筆者のつぶやき>

*案内板を参考に。

このクスノキの巨樹は、市内東部の山中八幡宮の正面参道右手にそびえ立っている。地上2mほどのところで2つに分かれ、樹高も20mを超える巨木。クスノキとしては県下で第二の大きさを誇る。国道1号線や名鉄電車からも望むことができるほど近くにあり地域の人々の身近な存在として親しまれている。

根元は1mほどの高さまで盛り上がり主幹は、このコブ(盛り根?このような表現があるか不明だが)の部分は杭と泥棒除けの針金を回し根元に入られぬよう嚴重に守られている。



写真番号4 山中八幡宮のクスノキ

これだけ嚴重に保護されているクスノキの巨木も珍しい。

主幹にはしめ縄をまわし、人を近づけない威厳のある雰囲気漂わせている。二股分かれの巨樹は特に珍しくないが、この大クスは根が1段上がったところから二股に分かれている巨樹は珍しい。周囲を掘り下げ台座のような形に掘り下げたようにも見える。この部分だけでも初めて見るような感じを受けた。

クスノキの根元によくあるコブについて、思い出したことをご紹介したい。

昭和の時代、このクスノキのこぶは価値の高いものであった。そのためクスのコブを求めて銘木業者が全国を探索しクスコブを集めていた。ところがお金になるので無断でクスコブを切り取る不心得者が現れ、勝手にコブを切り取られる事件が起こる。神社は不心得者を防ぐため、嚴重に針金を回し「わるさ」のできぬように根元を嚴重に固めていた。

愛知銘木協で一緒だった年配の入札仲間から聞いた話がある。

・・・ある神社のクスコブが、不心得者に切り取られてしまった。しかし、このようなご神木を痛め、コブを切り取る不心得者には天罰が下り、命を落としたという。「天罰觀面」である・・・

「天罰觀面」とは、悪いことをすると、その報いが即座に目の前で下される(バチが当たる)ことを意味する四字熟語。ネット参照。

<筆者のこぼれ話>

・街路樹について

5月30日の日本経済新聞の夕刊1面に「老木化」が進む街路樹、倒木防止へ対策急ぐ一樹木医が危険度診断」と大きく報じられていた。

要旨は日本全国で、街路樹の「老木化」が進み、倒木による被害が増大している。関係省庁、地方自治体の関係機関の調査は時間がかかるが、樹木の老化速度は速く、危険度の予知調査、予防措置が間に合わない。老木化が進んだ樹木は、安全確保のため伐り倒したいが、人手が足りず危険な状態にある。残念なのは、各地にある桜の名所の桜も伐り倒されることだ。地域住民から、桜の名所がなくなることが惜しむ声が上がっている。「このように危険だから伐り倒せ」に対して、樹木の状態を正しく判断できる樹木医が注目され、活躍の場が広がっている、とレポートしている。

筆者は、関係機関がなぜもっと早く手を打たなかったかが残念でならない。樹木医の活躍の場を広げ、補助制度等を設け、「危ないから伐り倒す」前の予防措置を講じなければならない。後手(ごて)後手(ごて)のその場しのぎでなく、長期的な予防措置で樹木を保護し、地域の名所、シンボルとしても残すべきと考える。

続く